

# 自立パン店 膨らむ意欲

沼隈の「ゼノ」運営 通所者製造から販売

## 喫茶店も「地域貢献の場」に オープン



焼き上がったパンを袋に詰める通所者たち

福山市沼隈町に知的障害者が働くパンの店と喫茶店が、相次いでオープンした。同町に拠点を置く社会福祉法人「ゼノ」少年牧場の社会就労センターわかば（西村重明所長）が運営。地域のひとと協力し、笑顔のもとでお客様の輪を広げていきたい考えた。

（赤江裕紀）

七月中旬、同町草深に「おいしい」と喜ぶ。オープンした「パン屋 麦っ子」。土、日曜と祝日を除き通所者十四人が交代で、工場と併設の売店に勤める。自家製小麦も使い、あんぱんや食パンなど目替わりで十五種類のパンを製造販売。最低でも一日百五十個、多い日には五百個を作る。職員の指導で生地成形、パン焼き、袋詰め、レンジ打ちなどをきみきみひとこなす。パン焼きやレンジを担当する小川敬太さん（21）柳津町は「毎日楽しい。お客さんもおいしいと言ってくれてう

パンの店は、同センターの方針の店舗を市から借り手が通所者の就労促進を受け、一層の喫茶店に目指して四年前から計画。職員が他のパン店でみ物を提供する。近所の修業し、製造から販売までノウハウを学んだ。昨年からは近くの農家の指導で自家製小麦を栽培し、一部商品の材料としている。師が飲食物を仕上げ、こちらは四人が交代で配膳や接客、清掃にあたる。西村所長は「障害のある人たちの仕事の選択版を増やすことも、地域に貢献できる場にした加工施設だった八十七平」と意気込んでいる。